

Internet Archive を用いた公共図書館ホームページ
の経年変化の調査
Survey on Changes of Public Libraries' Homepages by
Using Internet Archive

学籍番号：201621644

氏名：袁 方

Fang YUAN

現代では、Web が言論・文化・情報の中心になっており、様々なデジタル形式の情報が増えている。しかし莫大な Web 情報は極めて短時間で改廃され消滅しており、21 世紀は記録が残されていない時代にならないよう、Web 情報の保存が社会的に重要な関心事となっている。

本研究では、Internet Archive を用いて、目視で日本の公共図書館、主に都道府県立図書館全部 47 館と市立図書館 20 館の過去のホームページを閲覧して、レファレンスサービス、子ども読書推進活動、ビジネス支援サービス、SNS、公共図書館におけるデジタル化、障害者サービス、予約サービスという 7 つのサービスに関する記述がいつ現れたかといった調査を行った。ホームページに記載するということは、その図書館がそのサービスを開始した、あるいは力を入れるようになったと考える。各サービスについて記載年の分布を見ることで、日本の公共図書館でそのサービスがいつ頃重視されるようになったかを知ることができる。

調査結果、「調査相談」は「レファレンスサービス」の同義語とすると、「レファレンスサービス」という語が図書館ホームページに現れた年で最も多かったのは 2002 年であった。現在、都道府県立図書館のホームページは全て「レファレンス」という用語を掲げている。都道府県立図書館では、子どもの読書活動推進に関する用語は都道府県図書館のホームページで 2004 年に最も多く現れている。半数以上の都道府県図書館はビジネス支援室を設置し、ホームページに「ビジネス支援」という用語を掲げた図書館が最も多い年は 2004 年であった。視覚障害などで資料や情報の利用に支障がある人のために、図書館は様々なサービスや支援を行っておる。47 都道府県立図書館のうち、ホームページに障害者サービスを掲げる図書館は 35 館であり、2002～2004 年に障害者サービスという語を掲げた図書館が多かった。都道府県図書館は 2010 年から Twitter と Facebook を始めている。2017 年 12 月までに、19 図書館が Twitter をホームページに導入し、15 図書館が Facebook を導入している。現在、利用したい資料をあらかじめ Web 予約しておくサービスは全ての都道府県立図書館が行っている。このサービスに関しては 2005 年にホームページに掲示した図書館が最も多かった。

研究指導教員：辻 慶太

副研究指導教員：緑川 信之